

KAGAWA アンバサダーからのお便り

～ファンキー末吉さん～

香川県の皆さま、ご無沙汰しております。

私は今中国におり、香川県に帰ったのはもう3年以上前のことになります。

あの時はまだコロナもなく、私は毎年夏に開催されていた「日中友好こども（大人も可）サマードラムスクール」の、次の開催地として小豆島の施設を視察に行ったっきりです。香川県は中国人の喜びそうな観光地も多く、高松空港と上海との直行便もあるので候補地として有力だったのですが、結局そのままコロナ禍となり、開催の目処はまだ立っていません。

日本ではもうコロナと共存する動きとなっていますが、中国ではまだゼロコロナ政策が続いています。

私は中国で一番ツアーを廻るバンド「布衣楽隊」にドラマー兼プロデューサーとして参加しておりますが、毎年100本近いライブを廻るこのバンドも、今年はツアーが58本、うち14本がキャンセルになってます。

それでもこのゼロコロナ政策の中でこの本数のツアーが組めるこのバンドは凄いとされています。

ツアーの中で一番思い出深かったのは、このバンドが寧夏という西北の砂漠の街のバンドなので私もそこに住んでいるのですが、きれいに近い都市を繋げてブッキングしてたにも関わらず、その前後がキャンセルとなって1本だけ太原という街でのライブだけがキャンセルされてなかったの、メンバーはその1本のためだけに寧夏から太原まで往復しなければならないという状況になった時のことです。

私たちはいつも、中国全土に網目のように張り巡らされた高速鉄道（新幹線のようなもの）で移動するのですが、寧夏から太原はそれが遠回りになるため10時間もかかってしまうという状況でした。

朝いちで出発して、まる一日かけて夕方に太原に着いて、ライブハウスのオーナーが食事を奢ってくれてた時のことです。

何やら突然オーナーとマネージャーが外に出て深刻そうに何かを話していたと思ったら、戻って来てひと言、「明日のライブは中止になりました」と・・・



私は「何のために10時間かけてここまで来たのやら」と言うと、オーナーは「美味しいものを食べに来たんですね」と言って、その日の夜と翌日の昼もご馳走してくれて、そのまままた10時間かけて寧夏まで帰りました。

去年はツアー先の広州で、高速鉄道の同じ車両に感染者が乗っていたということで、ライブが始まる直前にいきなり全員隔離されたりもしました。

もう人生の中でこの2年ほどで4回隔離されたことがあります。

来年にはゼロコロナ政策が終わるといふ噂も聞いたりしますが、本当に終わるのか、いつ終わるのかということはまだまだはっきりとはわからない状況です。

国外に出れるようになったら、また香川県に帰りたと思っています。

聖通寺にあるお墓にも参らないと・・・

それでは香川県の皆さま、お身体に気をつけて。またお会い出来るのを楽しみにしています。



ファンキー末吉（すえよし）さん

坂田市出身。1984年、爆風スランプとしてデビュー。1990年に当時アンダーグラウンドであった中国のロックシーンに触れたことをきっかけに、中国でも活動を始め、中国ロックの黎明期を築いた。2000年には北京に移住、スタジオミュージシャン、アレンジャー、プロデューサーなどとして活躍中。

◇ KAGAWA アンバサダーについて

香川の魅力を世界へ発信するとともに、本県の諸課題に対する情報提供、活動、提言等を行っていただく大使です。主に世界を舞台に活躍している香川県出身者や県にゆかりのある方で、各界から候補者の推薦を受け、識者による選考後、知事が委嘱しています。

◇ KAGAWA アンバサダーからのお便りについて

県民の方々にKAGAWAアンバサダー事業及び県の国際化の推進について、より理解を深めていただくことを目的に、世界を舞台に活躍されているKAGAWAアンバサダーの方々から在住国や御自身の活動等について御紹介いただくものです。